

下心ありで外人さんと温泉旅行♪
に行った結果ヘタレな俺が逆に性的に食べられちゃうお話





ネットで外国人コスプレイヤーの女性と知り合った
日本に興味があると言っていたので
おもいきって温泉旅行に誘った

最初は迷っていたが必死に言いくるめて
何とか約束をして日本に来てくれる事になった

・・・どうやら下心には気づいてないようだ

「○○さんですか？」

「はい、初めましてミシェルさん
遥々日本まで来てくれてありがとうございます
疲れたでしょ？」

「結構遠くてへとへとですね・・・
でもその分温泉楽しみです！」

「それはよかった、じゃあ行きましょう」



楽しそうだな、一切疑ってない

実は予約した温泉旅館は
客ごとに小屋を借りるタイプ

しかも男女でしか予約がとれない
ちなみに混浴！

従業員も当然そのつもりでいる
つまり

2人きりの時ならどこで何をしようと問題無し！
いくら声を出そうが

そういうプレイだと思って助けには来ない（たぶん）

俺も楽しみになってきたよミシエルさん



居間に通され従業員が居なくなり二人きり

「良い所ですね、ここからの景色もスゴイ綺麗です」

「そうですね・・・」



「・・・そのつ、予約したかいがありました、ハハハ」

「じゃあ温泉行きましょうか」

「えっ、あっはい・・・」



なにも出来ませんでした



(そもそも俺には無理だったんだろうなあ・・・そんな度胸ねえもん・・・)

『美味しいですね！和食大好きです！』

「はは・・・美味しいですよ・・・」

ん
～
♡

『日本酒もすごく美味しいです！』

(普通にもてなしたただけだったなあ・・・)

それだけでも意味があつてよかったか・・・よかないか・・・うう)

『〇〇さんもお酒どーぞ』

「・・・あつ、ああすいません、酒呑めないんで遠慮しますね」



「ええ？私の酒が飲めにやいって言うんですか？」

「そういうわけじゃなくて、ほんとに苦手で・・・」



（ああもう思惑は外れるわ酔っ払い外国人に絡まれるわ
踏んだり蹴ったりだよ・・・泣きたい）



「えっ・・・うわっ!」

「それなら力づくで吞ませるだけですわっ!」



「ちよ、ちよつと、えっ？えっ？」

『いいからいいから。。。んふふ』

彼女は上に乗りながら口に日本酒を含んだ





(ちよ、ちよっと、なにこの・・・なに！？
口移しで酒吞ませるとか・・・舌もめっちゃ絡めてくるし！)



「ふう、美味しいでしょ？」

「はい。・・・いろいろおいしかったですか」



///



「おや？」

〇〇

「こ、これはその」
「お酒飲んで元気になっちゃったんですね」

「それじゃあ・・・」



えい



「こういうの好きですか？」

(うおっ、これは・・・すごい)

「日本だと『スマタ』ですよ
お気に召したようで良かったです」

「あっあっ急に速くしたら」



「もう出ちゃったんですか？」
「ご、ごめん」

「むう、まだまだ気持ちよさそうな顔見たかったのに……」



「じゃあ次はですねえ・・・あつ
あの椅子に座ってください」

「う、うん」

（なんでだろ？）

「さっきから胸ばかり見ていますので
コレを使って・・・ね？」

・・・ゴクリ



(服着てても思ったけどやっぱ乳でけえ)
「じゃあいきますよ」



「あへえ・・・」

「うふふ、また良い顔してますね
それでは動かし・・・」

ズ
ズ
ウ

〃

ド
ン



「あ、あら」

ド
ン

...

...



「まだ動かしてないんですけど」

「ご、ごめん、でも気持ちよすぎて・・・」

~~~~~

「ふーむ・・・」

くっく





「でもこのネバネバでとすれば更に気持ちよくなって  
もっといっぱい出るのでは？」

「うぐっこれはヤバすぎるって！」

グ  
リ  
ッ

ズ  
ブ  
ッ

「アハッ、いっぱい出ましたね」





「んふっまだ射精してますね」

(ううまだ搾り取られてる……)



「こんなドブドブ出るの見ちゃったので私も興奮してきました  
次は寝そべって下さい！ほらほら早く！」



「じゃあ挿れますよ」  
「う、うん」



（初めて見た時は清楚って感じだったけど）  
（今は獣みたいに興奮しまくってんな。。。）





(んっ・・・すごい・・・奥に届いちゃってますよ・・・)

んっ...

んっ...

ぐっ...

んっ...

んっ...

んっ...







ド  
グ  
...

ッ  
ッ  
ッ

グ  
ド  
ッ  
ッ  
ッ

ッ  
ッ  
ッ  
ッ

ド  
ッ  
ッ  
ッ



「ちょ、ちよっと、まだ射精してるのに。。。うぐぐ」  
「もっともっとお射精してほしいですよお」

グッポ

はぁ♡

グッポ

はぁ♡

グッポ

グッポ









「すごい気持ちよかったですよ  
私たち相性良いのかもしれないね」

（。。。そういう事言われるとまた勃起しちゃうんだけど）

ガクガク

ビュ~~~~~

いっぴ

はあ~~~~♡

はあ~~~~♡

「おや？また元気になっちゃったんですか？  
ではこのまま続けましょうかね♪」

その後5回くらい射精してから俺は気を失った

ガクガク



「あっ起きましたね、おはようございます」

「お、おはようございます・・・ううねむい・・・」  
（元気だなあ・・・股間痛いし元気でないよ・・・）



（そーいや酔っぱらってたけど昨日の事とか覚えてんのかな）

「うふふ、それじゃお目覚ましに一緒に温泉入りましょう」

「い、一緒、いいんですか」



「だって混浴ですよ？」

（そうだけどそうじゃなくて！元氣出てきた！）



(おかしい・・・)

「身体洗ってあげますよ！」  
と言ってくれたのでお願いして  
まず頭を洗ってもらって  
背中も洗ってもらったまでは普通だったのに





『それでは前もキレイキレイしますよ』  
何でチンコまで洗う流れになってんだよ！



「おっ・・・おねがいします・・・」

（・・・断る理由は無いけどさ！すげえ恥ずかしい！）



(ああ、めっちゃ顔見てくる・・・絶対反応見て楽しんでるよ・・・)  
(触り方も絶対わざとだし)



(うっ・・・出そう・・・)



グ  
グ  
グ  
ン



グ  
グ  
グ

グ  
グ  
グ





「だ、  
だって・  
・」

（永久にキレイにならないと思います・・・）

もぉ〜♡

グ  
ト  
オ  
！  
！  
！

その後も身体を洗うふりをしてイジられ

彼女に見られながら何度も無様に射精してしまった



「あったかいですねー」

「・・・はい」

「どうしましたか？」



「どうしたって、だってその・・・」



(柔らかいし気持ちいいし嬉しいけど・・・)  
「どうしてこんな密着してるんですか？」

ガッ  
チー

「混浴ですし」

「いえ全くわかりません・・・」

「混浴はこういう所をする場所って同人誌で見ましたよ？」

「・・・確かにそういう風な誤解を与えますけど」



「でも〇〇さんも元気になってますよね？」

「うっ」



「ほらほら、あとちょっとで挿いっちゃいますよ？」

「・・・」



「あんっ」





「我慢してたのに・・・挑発するからっ・・・」

「んっ・・・挑発にのってくれて・・・感謝しますよ・・・」



「あと、挑発ついでに言いますとね」



「昨日ですが、あれ別に酔ってなかったですよ」

「……え!？」

「勢いではなく最初から犯しちゃおうと思ってました」

「!!!!!!？」

「だってそんな、というかわざわざそんな回りくどい事を何で……」

「可愛かったのだからかっちゃんしました、うふふ」

「でも好きなのはホントですよ、親切ですごく優しいですし」

「……ボソッ（だから中を出していいですよ）」









「もっと出せますよね？」

(うう、干からびて死ぬ・・・)



「うふふ、そうやってがんばってくれる所とかかわいいですよ」

「きもちよかったですねー」

（なんだろう・・・すごく良かったけど、この何とも言えない気持ち）

「どうしました？」

「かわいいって言われたのがちよっと・・・」

「ああ、そういうつもりでは無いですよ

○○さんはウブでかわいいです」

（またかわいいと言われた・・・）





「私の街だとガツガツした男ばかりだったの  
あなたのような『紳士』は好みだったんですよ」

(うう・・・最初色々と企んでたから胸が痛い)



(・・・というか、実は最初の思惑とかバレてて  
わざとこういう事言ってたなり？いやさすがにそれはないか)

「うふふ、私には良いですけど」

「女性にはあんまりそういう打算を見せちゃダメですよ」

「・・・はい」

「じゃあお部屋帰ったら続きしましょうね」

「はい・・・はい!？」



「夕飯にはまだ時間あります、有効に使わなきゃですよ」



「はあ・・はあ・・せっかくお風呂に入ったのに  
お互いもう汗でびちゃびちゃですね」













「はあはあ・・・やっぱり夢中になってる○○さんはかわいいです」  
「うっ・・・からかうのはやめてください」

「うふふ、次も上手にできたら考えますね」

ズ  
ブ  
ー

ポ  
ッ

ト  
ッ  
ト  
ッ

ド  
ン

ふ  
ー  
ん

結局夕飯の時刻を  
過ぎてても行為を続けて  
気づいたら隣の部屋に  
夕食が用意されていた  
我々の声とか色々聞かれたかも・・・



(うおおおおおキャラのまんまじゃん・・・)

「衣装持ってきちゃいましたよ、似合いますかね？」



「・・・はっ、すごく良いです！マジで！」

「嬉しそうで何よりですよ」



「じゃあこの格好のままエッチしましょっか」

「.....あっ、でも汚れちゃうし.....」

「そんなおつきさせて言うセリフじゃないですね」

「うっ」

ぴゅっ♡



「これは手作りなので汚しても大丈夫ですよ  
遠慮しないで来てください♪」



ズブズブ...

ん...♡

ん

「はあ...幸せ...」

「良かったです、でもあんまり興奮されると

このキャラに○○さんをとられちゃったようで

ヤキモチ焼いちゃいますね」





「えっ、いえそんなことは無いよ！

ミシエルさんすごく綺麗でエロいし、ああ違う！いやそうだけど」

「えっ」

「あっすいませんもう出そう！」

て  
ビクッ

サッ

ッ  
タビッ

ッ  
タビッ









（私とした事が・・・一緒にイッちゃいました）  
（綺麗と言われて嬉しかったのでしょいうか？）

っっ

~~~~~

ブルッ

~~~~~

（・・・これは恥ずかしくて言えませんか）





## 翌日の朝

スヤア・・・

「起きる気配は無いな」

昨日のエッチの後

寝る前にちよつとアニメを見るって言ってたもんな

この様子だとちよつとじゃなかったようだけど

ズズズ...

「それにしてもすごい格好で寝てる」

・・・エッチな事しても起きないかな？





脱がす

ふむ・・・余計ムラムラしてきちゃった



こするだけだから・・・ちよっとこすって出すだけだから





やべっさきつちよが  
あつあつ・・・このままじゃ挿いっちゃう・・・

ん...



チゅぽ...



ああ止まらない・・・ちゃんと外に出すから・・・









「ふうスツキリした」

「寝ている間に好き勝手にしてくれましたね？」

「・・・あっ」

ぐっぐぐぐぐ...

「しっかり中出しまでして自分だけ楽しんじゃって・・・」

「ひえっ」







「あの。。機嫌はいかがでしょうか・・・」

「さっきの事はこのくらいで許してあげますよ」

「よかった。。。」



(ああでも、今日で最後なんだよなあ...)





「最後ですし本気で子作りでもしましょうか？」

「!?!」

「旅館の人から聞きましたよ  
本来そういう人たちが泊まるのでしょ？」

「そ、そうっすけど・・・」

(なんて言いましたけどちゃんとお薬飲んだんですよ)  
(こういう事言つとすぐ赤面する所とかかわいいんですねー!)



「あ、あれ?・・・」

(いつもより

デカくなってる気がしますね?)

「あ、あの・・・さっきのは・・・」





「もっと・・・ゆっくり・・・んうっ・・・」



（夢中で全然聞こえてない・・・）

（そんなモノでえぐられ続けたら

私の中の形変わっちゃいますよお）







「はあ・・・はあ・・・  
もっとしたい・・・だから、その・・・」  
(ジョークのつもりでしたが  
まさかこんな事になるとは・・・  
でもからかい過ぎたのは私のせいですし  
・・・それに)

(これだけ一生懸命したら嬉しいですね)  
「・・・いいですよ、もっとしましうね」





数時間後

「大量に中だしキメられて  
お腹の中タプタプですよ  
あら、まだ休ませてくれないんですか？  
・・・あんっ」

（・・・こんなに出されてお薬効きますかね？）

ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ

ガッ  
ガッ

ゴッ  
ゴッ

・・・  
♡♡♡

はー  
はー  
♡♡♡

はー  
はー  
♡♡♡

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ









「はあ。。はあ。。朝から元気ですね」

「チエツクアウトまでまだ時間あるし。。。。あともう一回」

「さっきも同じこと言っていましたね」

「そ、そうだったけ？」

ふーん♡

ズボーン





「私が帰ったあととどうするんですか」

「えーと・・・俺は予定なんて無いけど・・・  
というか、その・・・やっぱ、すぐかえっちゃうの・・・？」

っっ





「そんな顔されちゃうとやっぱりまだ帰れないですよね♪」  
「・・・？」

「実は朝のうちにあと一週間泊まりたいと伝えておきました  
もちろん二人で」

「！」

「なので一緒に泊りしましょうね  
そのあとの事は・・・まあその時考えましょう♪」



おしまい





























































































































































































































































